

# 景況 レポート

7月分

情報連絡員 80名

## 景況の厳しさは変わらず

～DI値は-50台～

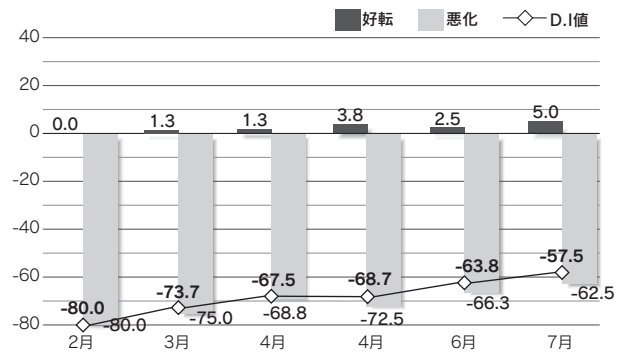
### 景気概況

7月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.0%（前月調査2.5%）、「悪化」が62.5%（同66.3%）で、業界全体のDI値は-57.5となり、前月調査と比較し6.3ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-65.7で前月調査（-75.0）に比べ9.3ポイント上回った。また、非製造業全体としてのDI値は-52.0で前月調査（-56.2）に比べ4.2ポイント上回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合 [前年比/同月比]



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	[天気図の見方] 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							[凡例] 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 くもり △10以上 10未満 雨 △30超 △10未満 雷雨 △30以下
非製造業							

### 業界の声

味噌醤油製造	6月分の出荷量は、前年同月比で味噌が99.0%、醤油は118.7%で推移した。醤油は前年同月を上回ったが、昨年は値下げの反動で出荷量が少なかったことによるものである。
清酒製造	6月分の清酒出荷量は1,691kℓで、前年同月比98.6%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で108.0%、純米酒が105.5%、本醸造酒が98.3%、レギュラー酒が97.0%という状況になっている。
繊維・同製品	秋物の生産に一部取り掛かりつつあるが、実需期ではないため、その足取りは重い。個人消費は低迷しており、まだ回復していない。
木材・木製品	市況は底を脱したとの見方もあるが、地方では実感がなく前年割れの状況が続いている。原木価格は梅雨時で出荷量が少なく強含みで推移。集成材は安値が続いているが、一部杉集成材の動きが回復していることから杉ラミナには動きが見られる。
窯業・土石	4月～7月の出荷数量は前年比75%であり、出荷数量の減少、コストアップという状況に変化はない。全国の生コン出荷量は、第1四半期で前年比85%であるが、東北は80%と落ち込みが激しい。
自動車販売	7月の新車販売台数は、登録自動車が2,497台（前年同月比104.4%）、軽自動車が1,803台（同101.5%）で、合計4,300台（同103.2%）で推移した。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり122円で前月比4円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり100円で前月比2円の引き上げ、灯油（配達込み）は18ℓ宅配で1,187円で前月比41円の引き上げとなった。価格競争が激しく、県南を中心に市況が悪化している。
電機販売業	エコポイントの効用が続いており、右肩上がりに推移している。エアコン・冷蔵庫等の夏物商品は天候不順の影響から伸び悩んでいる。
商店街	全般的に厳しい状況ではあるが、家電はエコポイントと地デジ化への対応も手伝い好調に推移した。[秋田市]天候不順により、衣料品関連では夏物衣料の動きが不調となった。景気の動きは全く感じられない。[大館市]売上は衰退もしくは平行線の一途を辿っている。天候の影響で、衣料品、夏季食料品も伸び悩みの状態である。[鹿角市]
一般建築	国・県の前倒し発注により前年同月比で受注量が増加した。
運輸	貨物量は依然として低迷しており、運賃も下落が続いている。県南では、天候不順でスイカ輸送の大幅減が心配されたが、前年同月比5%の減少で止まっている。